

第2期産業振興計画嶺北地域アクションプランの取り組みの総括

取組の成果と今後の方向性

◎総評
 嶺北地域では、人口の著しい減少(H17:15,036人→H22:13,591人)と高齢化の進展(H17:43.6%→H22:46.0%)を踏まえて、各分野における担い手の確保・育成を最大の課題と捉え、中山間地域の豊かな地域資源を生かした産業の展開を図った。
 28の地域アクションプランでは、「れいほく」ブランドの園芸産地を維持するための研修の充実や、「土佐あかうし」生産基地の整備(H26)、大型製材工場の稼働(H25)などにより、新規就農者や新たな雇用が生まれた。また、大阪圏都市部(行政、民間団体)や県外の大学等と連携して、地域資源の掘り起こしや、新たな商品開発、販売促進活動の充実に取り組み、人的・物的交流も拡大している。
 今後は、各事業主体の自発的な活動につながるよう、これまで築いてきた県と4町村の連携をさらに促進し、各分野の課題解決を図るとともに、観光・交流人口の拡大や産業化、U・Iターンによる地域外からの担い手確保につながる取り組みを強化していく。
 ※地域アクションプランによる雇用の創出(H24~H27) 49人
 うち産業振興推進総合支援事業費補助金関連 8人

◎各分野の取組の成果と今後の方向性

- ・農業分野
 - ・「れいほく八菜」等の園芸産地を維持し、新たな担い手を育成できた。今後は中山間地域の農業を支える複合経営拠点の仕組みづくりを推進する。
 - ・土佐あかうし、土佐はちきん地鶏、ユズ・米加工品等の生産体制が強化されたため、ブランド化とともに一層の販売促進に取り組み。
- ・林業分野
 - ・大型製材工場の誘致や木質バイオマス加工施設の整備により、木材の生産や利用が拡大した。今後は、「森の工場」を中心とした事業体や担い手の育成及び間伐・皆伐の推進によるさらなる木材増産並びに嶺北材の販路拡大に取り組み。
- ・観光分野
 - ・県外大学等と連携して地域外誘客を促進してきたが、自然資源の活用にはまだ十分な可能性があるため、4町村連携による体制強化を図り、民泊の推進や旅行商品の開発及びPRの充実、アウトドアの拠点整備に取り組み。
- ・その他
 - ・4町村とNPOが連携した取り組みによって移住者が増加し、地域との交流活動が充実してきた。
 - ・農林業のインターンシップ事業や観光・交流事業との連携による生産・販売体制の整備や、地域資源を活かした6次産業化を一層推進する。

主要な指標及び目標

| 項目 | 出発点(2期計画策定時) | 目標(H27) | 実績(H27) |
|-------------------------|------------------------|-----------------------|-------------------------|
| 「れいほく八菜」の販売額 | H22:2.2億円 | H27:1.6億円 | H27:1.8億円 |
| 「れいほく八花」の販売額 | H22:1.1億円 | H27:1.1億円 | H27:1.2億円 |
| 「れいほく八恵」のユズ加工品販売額 | H22:4.6億円 | H27:6.0億円 | H27:2.9億円 |
| 米粉等の販売額 | H22:0.5億円 | H27:1.1億円 | H27:1.04億円 |
| 「土佐あかうし」の販売額 | H22:1.9億円 | H27:2.1億円 | H27:2.71億円 |
| 「土佐はちきん地鶏」の出荷羽数 | H22:5.1万羽 | H27:10万羽 | H27:5.5万羽 |
| 木材の素材生産量 | H22:5.6万m ³ | H27:15万m ³ | H27:7.9万m ³ |
| れいほくスケルトン(嶺北材の邸別販売)の出荷量 | H22:新規 | H27:900m ² | H27:1,026m ² |
| 公共関連宿泊施設での宿泊者数 | H22:9,687人 | H27:12,000人 | H27:15,028人 |

主な支援策の活用状況(H24~H27)

- ・産業振興推進総合支援事業費補助金 7事業 66,561千円
- ・観光拠点等整備事業費補助金等 6事業等 13,040千円
- ・専門家の派遣(産業振興アドバイザー事業) 15件、延べ38回

●米のブランド化による稲作農業の展開
 【本山町】
土佐天空の郷 <本山町ブランド化推進協議会、(財)本山町農業公社、ばうむ合同会社等>

取組の内容
 ・ブランド米の生産増、販路拡大
 ・ブランド米を活用した加工品(米焼酎)の開発、製造販売

主な成果
 ・ブランド米の販売額 3,120万円(H22) →3,422万円(H27)
 ・お米のコンクール金賞



今後の方向性
 ・生産者と生産量の増
 ・直接販売の増等による生産者価格の増

●JA出資型法人を核とする地域活性化の取組
 【土佐町】
農業の担い手育成 <JA土佐れいほく、(株)れいほく未来等>

取組の内容
 ・大阪圏の自治体及び企業等との連携による農業の担い手の育成(インターンシップ研修)
 ・新規就農研修支援事業による研修実施

主な成果
 ・都市部からのインターンシップ研修生受入 累計74人(H25取り組み開始~H27)
 ・新規就農研修支援事業による研修生 累計5人(H23事業開始~H27)



今後の方向性
 ・インターンシップ研修終了後の就農支援の展開
 ・大阪圏自治体との連携強化

●れいほくブランドの園芸産地の維持
 【嶺北地域全域】
れいほくブランド <JA土佐れいほく(園芸部会、花卉部会)、直販生産部会土佐町支部>

取組の内容
 ・「れいほく八菜」担い手育成に向けた研修会の充実
 ・「れいほく八花」ノーブル由来の新品種の生産技術確立
 ・雨よけレンタルハウスの設置
 ・県内外の市場への販売促進活動

主な成果
 ・新規就農者数 16人(累計)
 ・ノーブル由来の新品種の登録申請による新たな販売展開

今後の方向性
 ・地域農業の核となる担い手の育成
 ・れいほくブランドの確立



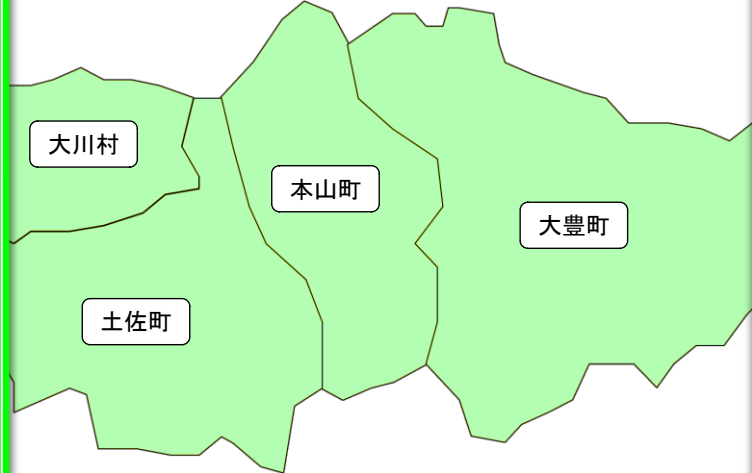
●(株)大豊ゆとりファームを核として地域資源の活用により地域産業を持続化させる取組
 【大豊町】
碁石茶 <(株)大豊ゆとりファーム、大豊町碁石茶協同組合等>

取組の内容
 ・イベント出展等による販促活動
 ・県外商談会での商談

主な成果
 ・関連商品の総販売額 0.2億円(H22)→1.09億円(H27)
 ・新規取引先 218社



今後の方向性
 ・茶葉や加工品の販路拡大
 ・固定客の確保・拡大



●嶺北地域の連携による交流人口の拡大
 【嶺北地域全域】
県外都市部の大学等との連携 <嶺北地域観光・交流推進協議会>

取組の内容
 ・大学等と連携した旅行商品の磨き上げ
 ・地域産品を活用した新商品の検討・開発
 ・インターンシップを始めとする地域との交流

主な成果
 ・県外都市部の3大学と連携した取り組みへの参加学生数 累計346人

今後の方向性
 ・学生の企画・提案内容の実現に向けた協働による取り組み
 ・都市部の大学と地域の交流の継続、拡大
 ・協働する大学・専門学校等の拡大



●土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興
 【本山町、大豊町、土佐町】
土佐あかうし <JA土佐れいほく、(株)れいほく未来等>

取組の内容
 ・畜舎整備(H24~H26)
 ・繁殖雌牛の導入
 ・繁殖活動
 ・子牛の飼養



主な成果
 ・繁殖雌牛導入数 14頭(H24導入開始)→87頭(H27) 累計88頭
 ・販売額 1.9億円(H22)→2.71億円(H27)

今後の方向性
 ・繁殖雌牛及び肥育牛の増頭
 ・繁殖から肥育までの一貫した生産管理の徹底
 ・6次産業化に向けた取り組み

●大型製材工場の設置による地域材の利用の促進
 【嶺北地域全域】
高知おおとよ製材 <高知おおとよ製材(株)等>

取組の内容
 ・工場の稼働(H25)
 ・本格稼働に向けた体制強化及び増産

主な成果
 ・雇用の創出 47人(うち長期47人)



今後の方向性
 ・地域内での原木供給体制の確立

●嶺北地域の連携による移住促進の取組
 【嶺北地域全域】
移住・定住促進 <れいほく田舎暮らしネットワーク等>

取組の内容
 ・れいほく田舎暮らしネットワークと4町村が連携し移住促進の取り組みを展開
 ・移住相談・空き家調査の実施
 ・移住体験ツアーの実施

主な成果
 ・移住相談件数 258件(H24)→339件(H27)(延べ1,295件)
 ・移住実績 55人(H24)→117人(H27)(累計331人)



今後の方向性
 ・事務局体制の強化
 ・移住希望者のニーズに沿った情報発信

嶺北地域アクションプランで設定した
数値目標等に対する評価



重点的な対応が必要と思われるものについては、市町村や関係団体等との密接な連携のもと、課題の克服やさらなる成果の拡大に取り組む。

(主なもの)

| 項目 | 見つかった課題・方向性 | 今後の展開 |
|--------------------------|--|--|
| 地域農業を守るための拠点づくりで元気な地域づくり | 農地や地域農業を守るためには、町村単位など広域での拠点づくりが必要であり、拠点を核とした継続性のある経営体制の構築が急務 | ◎嶺北地域における農業の生産性の向上や担い手の確保、農地の維持、雇用の創出等につなげるために、「中山間農業複合経営拠点」の整備を推進する。 ・農村集落活性化支援事業(国費/H27)実施による中山間農業複合経営拠点の構想づくり《大豊町、本山町、土佐町》 ・「集落営農塾」の開催(H27～)及び研修・視察等による人材育成や集落の合意形成の支援 ・施設園芸(経営・研修用)のハード整備(H28-31) |
| 嶺北地域の連携による交流人口の拡大 | 嶺北4町村が連携・協力して、交流人口の拡大に向けた取り組みを展開・発展していくためには、広域観光を担うコーディネート組織(人)の機能強化が必要。また、人材を確保・育成し、継続した営業体制を構築することが急務 | ◎都市部にはない自然や人との関わりを重視した魅力ある観光拠点の開発を推進する。 ・本山町アウトドアの里づくり拠点事業の推進 ・「白滝の里」観光拠点づくりによる山岳観光の推進 ・嶺北4町村が連携した事業を展開していくための事務局体制の構築 |
| 嶺北地域の連携による移住促進の取組 | 移住希望者が増える一方で、住宅が慢性的に不足しているため、空き家対策が課題。また、NPO法人れいほく田舎暮らしネットワークを中心とした活動を持続性あるものとするためには、関係機関との役割分担や人件費の確保などの体制整備が必要。 | ◎移住用住宅対策の強化及び継続可能な移住促進体制の確立を支援する。 ・移住お試し住宅の設置や住宅の補修・改修、空き家の中間管理等の推進 ・移住促進連絡会の体制の確立・継続化(人件費の確保等) ・農業・林業における担い手育成・確保の取り組みとの連携 ・都市部の地方公共団体等との連携 |
| 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興 | 土佐あかうしの販売額の上昇を目標に掲げ、畜産基地の整備(H26)や官民一体となった外商を進めてきた結果、市場の評価が高まり、枝肉価格も上昇した。今後は、飼育頭数をさらに増加させ市場ニーズを満たすことが喫緊の課題であるとともに、販売額をさらに増加するための生産性や品質の向上が必要。(H22:1.9億円⇒H27:2.71億円) | ◎土佐あかうしのブランドをさらに高めるため、増産と飼育管理技術の向上を図る。 ・飼育管理者の育成 ・新たな堆肥処理施設の整備 ・安定した自給飼料の確保 ・増産に対応した販路の確保及び販売体制の強化 ・嶺北畜産クラスター化の推進 |

・達成状況を客観的に評価できる目標について、以下により4段階評価を実施

(目標の設定がないものや客観的に評価できない定性的な目標については、「—」としている)

| 区分 | 評価基準 | 件数 |
|----|--|-----|
| A+ | ・数値目標を達成したもの → 数値目標の達成率(または達成見込率)が100%以上 ・数値目標ではないが客観的に評価ができる目標を達成した(または達成する見込みがある)もの | 15件 |
| A | 第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できたもの、または状況を改善できたもの ・数値目標をほぼ達成したもの → 数値目標の達成率(または達成見込率)が60%以上100%未満 | 4件 |
| A- | ・数値目標の達成に向けて十分な進展が見られなかったもの → 数値目標の達成率(または達成見込率)が60%未満 | 14件 |
| B | 第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できなかったもの、または状況を改善できなかったもの | 6件 |
| — | 目標の設定がないものや、客観的に評価できない定性的な目標を設定したもの | 0件 |
| | 計 | 39件 |

※1つのアクションプランで複数の数値目標等を設定したものもあるため、上記の件数とアクションプランの数とは一致しない